

#### 4-7 関東・東海地域における最近の地殻傾斜変動 (2004年11月～2005年4月) Recent Results of Continuous Crustal Tilt Observation in the Kanto-Tokai Area (November, 2004-April, 2005)

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

前報<sup>1)</sup>に引続き、2004年11月から2005年4月までの間の傾斜観測結果について報告する。第1図に各観測点の配置とそのステーションコードを示す。第2図に各観測点における傾斜の毎時値を並べて示す。第2図の配置は、概ね、第1図に示す観測点の西方から東方に向けての順番としている。第2図の下部には各図中の代表点における日降水量を示す。

作図上のフルスケールは10マイクロラジアンであり、各観測点の下方向への変化が、南北成分は北下がり、東西成分は東下がりとなっている。

2005年3月12日～28日にかけて伊豆市の宇佐美付近でごく小規模な群発地震が発生した。防災科研の定常的な処理で決められた地震の総数は45個で、そのうちの最大地震のマグニチュードはM2.3である。YOSにおける東西成分がこの群発地震が活発になる2日位前から数日にわたって東下がり方向に約0.2マイクロラジアン変化している。南北成分も同じ頃に2日程度短期的に変化しているが、そのほとんどは気圧の影響によるものである。ITOにおいても気圧の影響による変化以外には、はっきりした変化は認められない。また、OKA、TNGでも同様に変化は認められない。これらから、YOSにおける東下がりの変化と地震活動との関連性は低いものと考えられる。

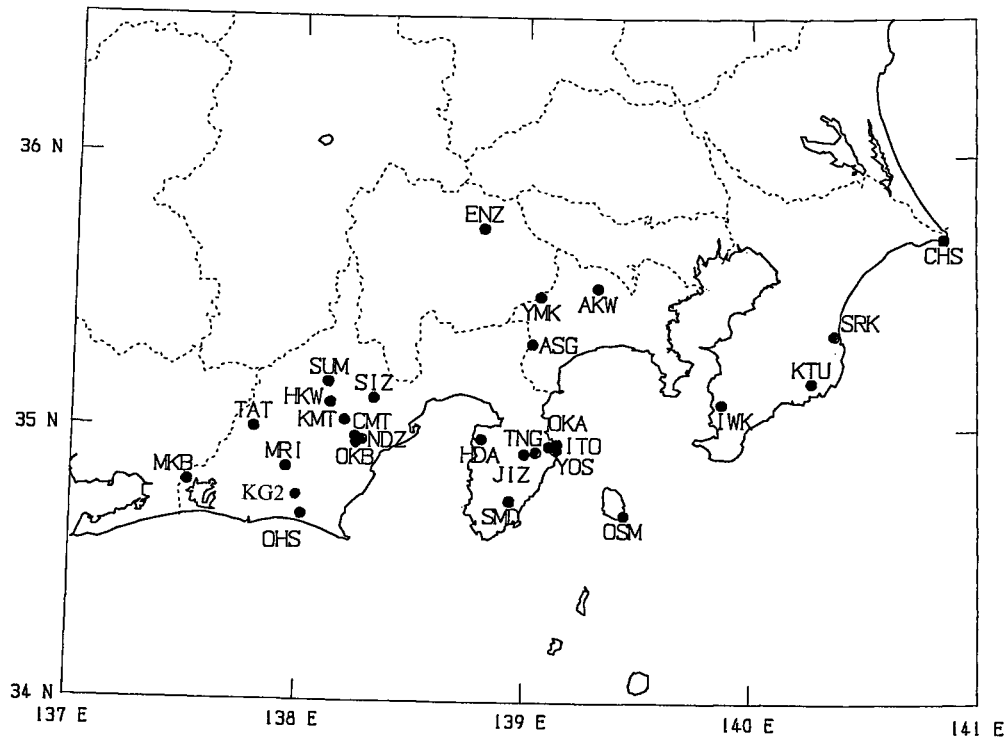
千葉県北東部において4月11日に余震を伴うM6.1の地震が発生した。震源の深さは52kmである。この地震の震央から約20kmのところにはCHSが位置しているが、この観測点においてはこの地震に関連するような変動は検出されていない。なお、この地域では最近20年間でM6クラスの地震がこの地震を除いて3回発生した。CHSにおいては、今回と同様、いずれの場合にもこれらの地震に関連した変動は観測されていない。

これらの他に、地震時の機械的な衝撃による変化や、データ伝送用回線不通や一時的な停電の影響による記録の乱れ以外には、今期間中にはっきりとした異常な変化は認められなかった。

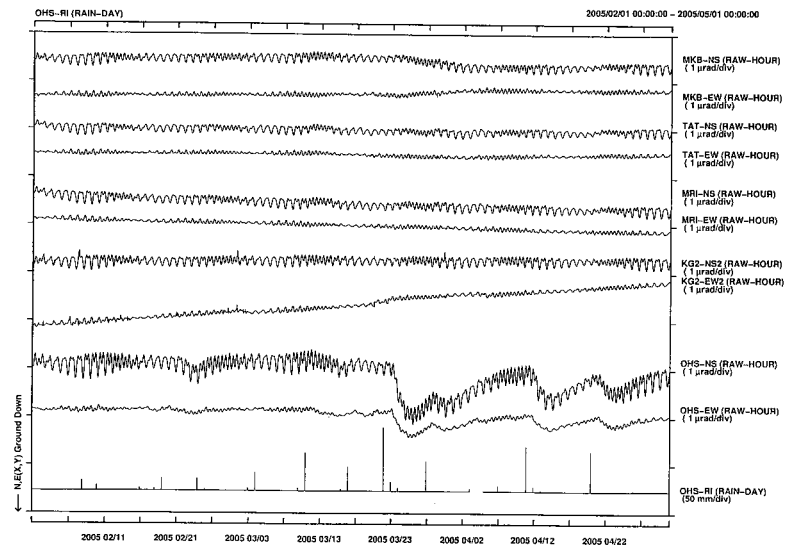
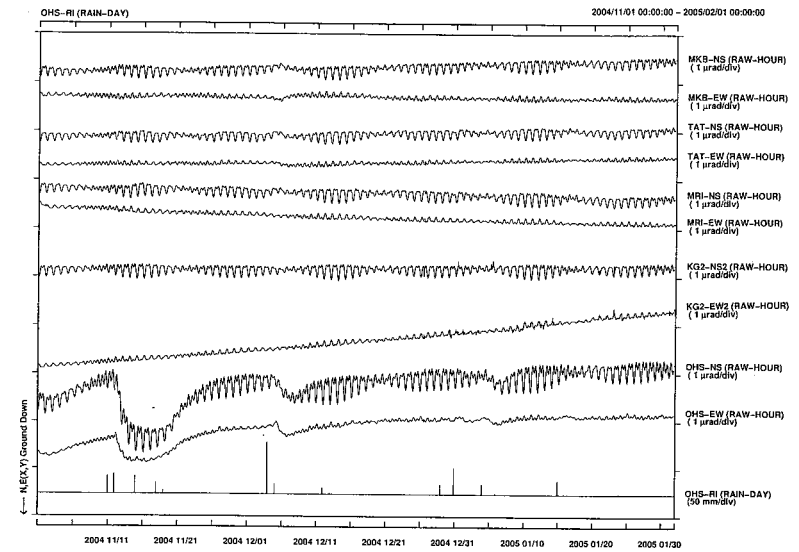
(大久保正・山本英二)

#### 参 考 文 献

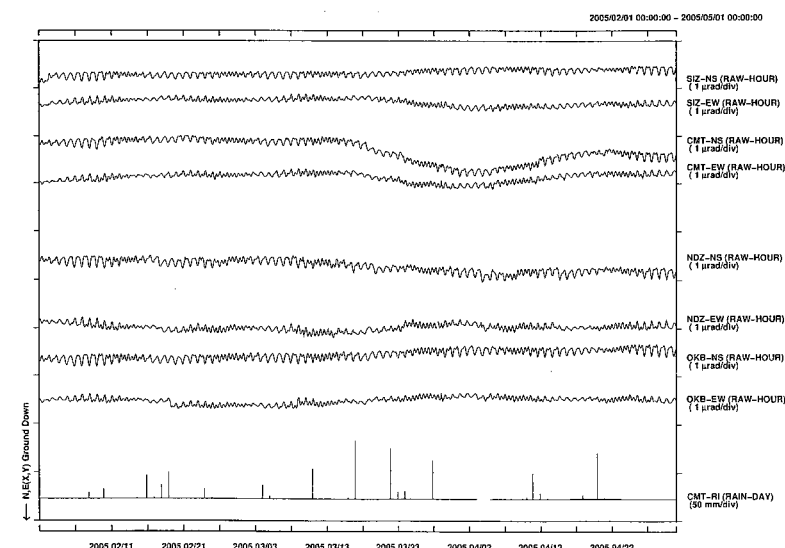
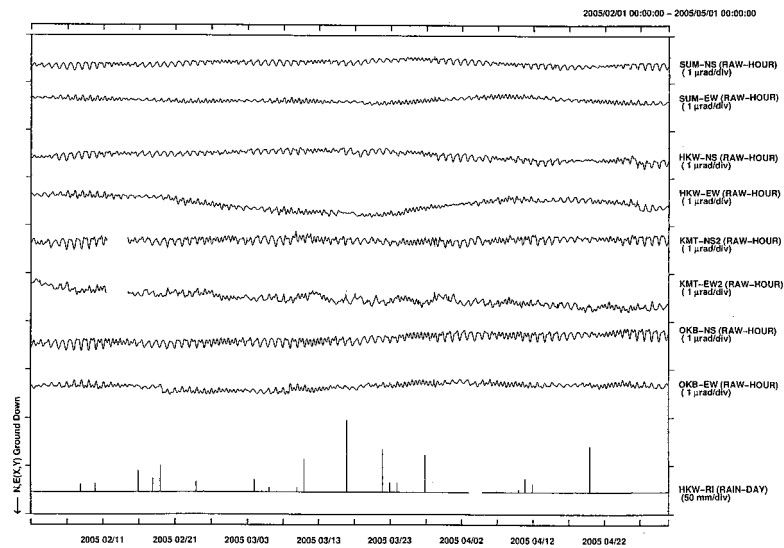
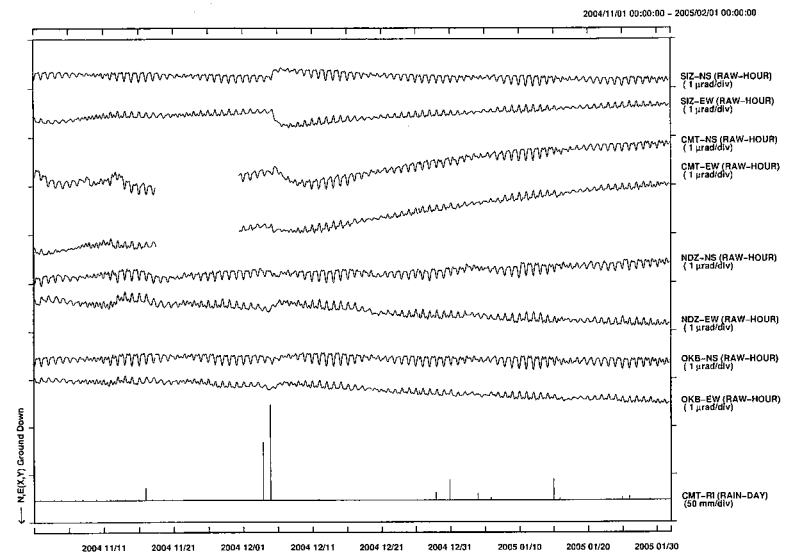
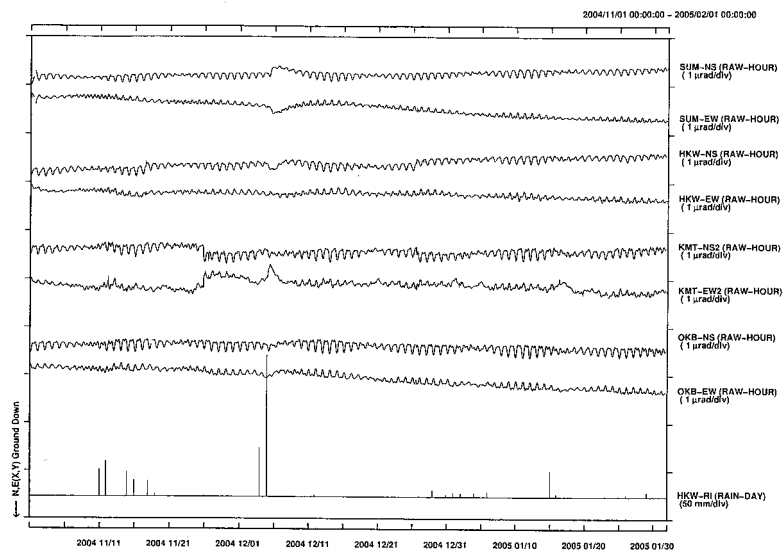
- 1) 防災科学技術研究所 (山本英二・大久保正)：関東・東海地域における最近の地殻傾斜変動 (2004年5月～2004年10月)，連絡会報，73(2005)，121-126.



第1図 地殻傾斜観測点の分布  
Fig.1 Distribution of crustal tilt observation stations.

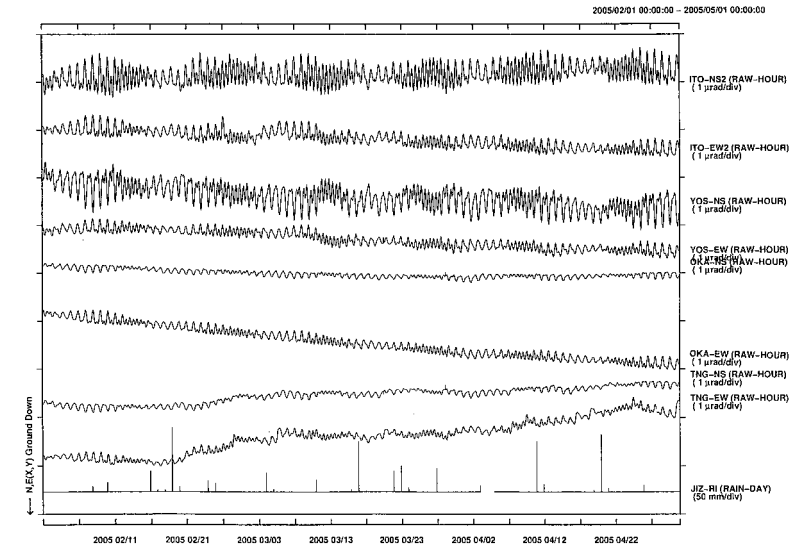
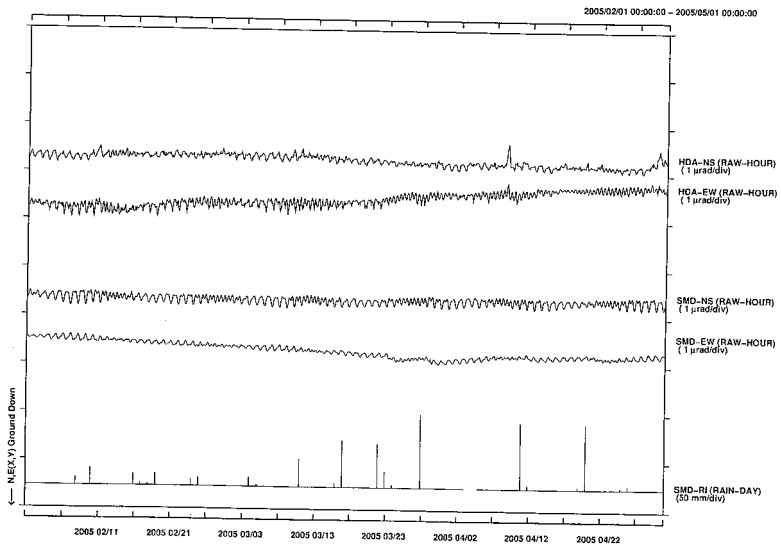
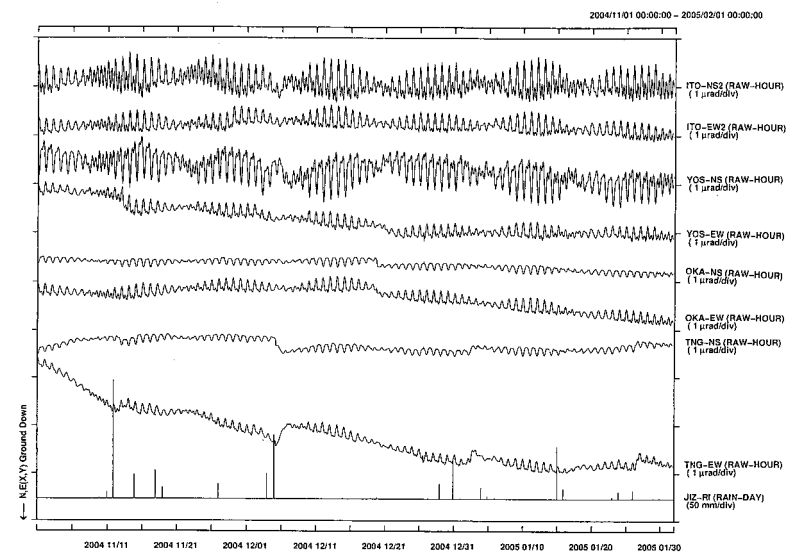
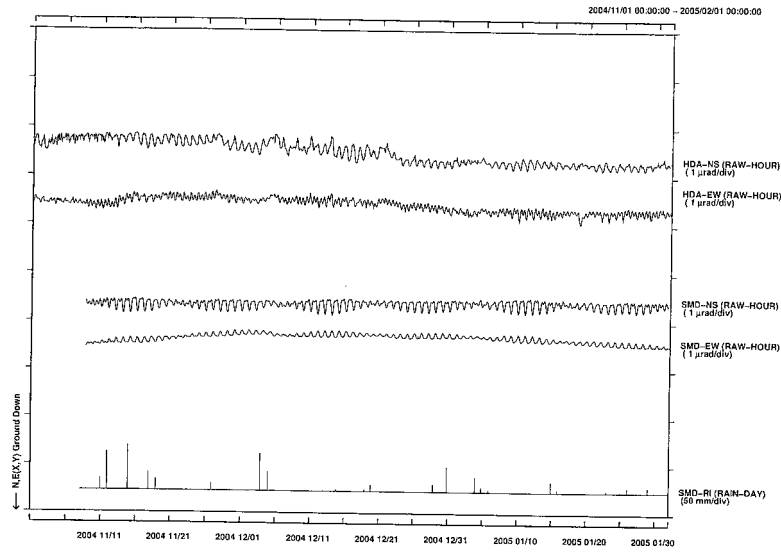


第2図 地殻傾斜の毎時値及  
Fig.2 Hourly plots of crustal tilt.



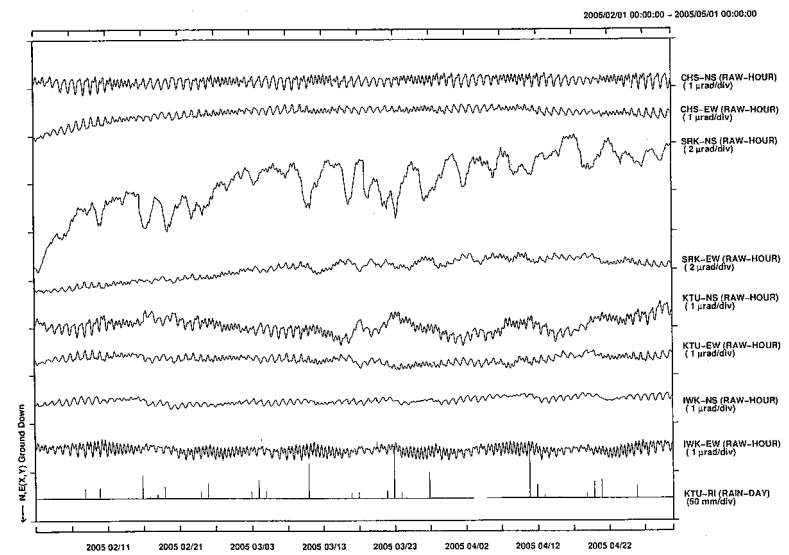
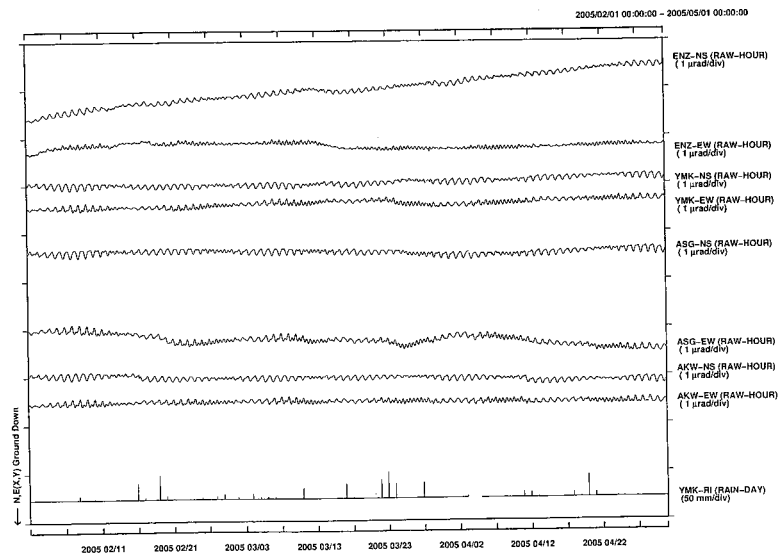
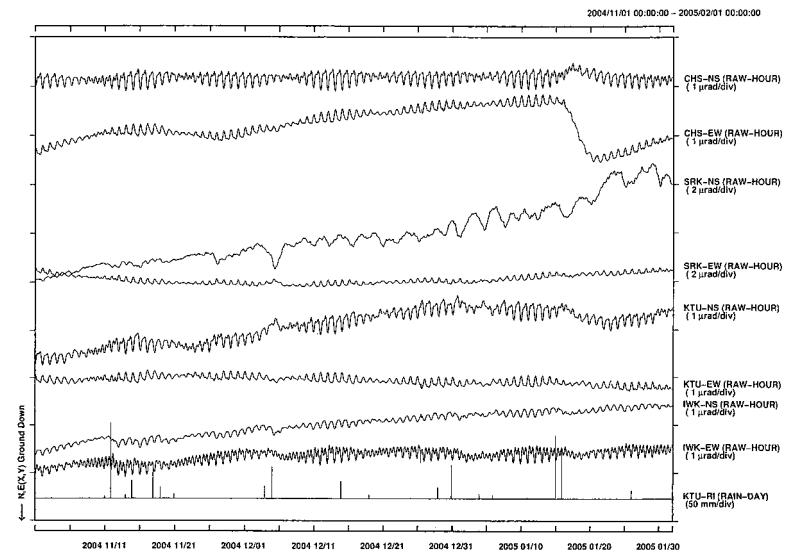
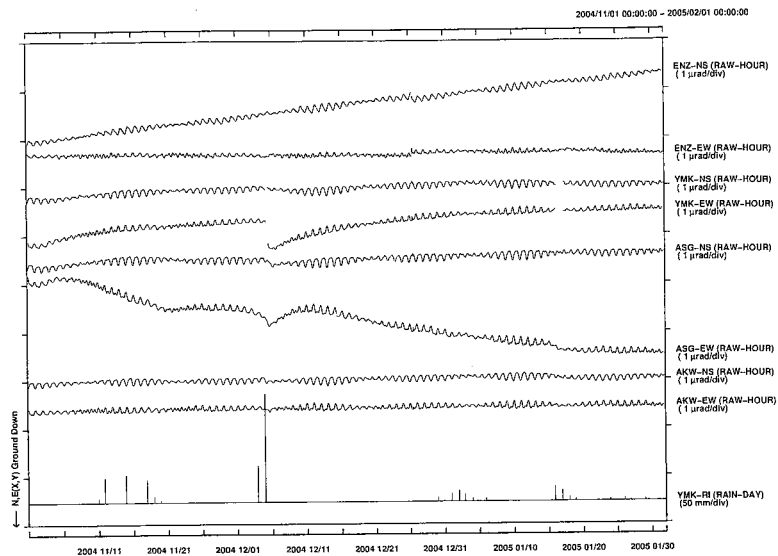
第2図 つづき  
Fig.2 (Continued)

第2図 つづき  
Fig.2 (Continued)



第2図 つづき  
Fig.2 (Continued)

第2図 つづき  
Fig.2 (Continued)



第2図 つづき  
Fig.2 (Continued)

第2図 つづき  
Fig.2 (Continued)